



はじめてのパリ、
もうひとつの
人生に出逢う

Une Estonienne à Paris

Jeanne Moreau
Laine Migi Patrick Pineau
a film by Sloane Raag

ジャンヌ・モロー主演

クロワッサンで朝食を

A Lady in Paris

(2012年ロカルノ国際映画祭 エキュメニカル賞受賞)

セテラ・インターナショナル創立25周年記念作品

監督：イスマル・ラード 出演：ジャンヌ・モロー「発刊台のエレベーター」、ライネ・ミギ、パトリック・ピノー

原題：Une Estonienne à Paris / 2012 フランス-エストニアベルギー フランス語-エストニア語-95分 ヴェスタ 日本語字幕 古田由紀子 協力：ユニフランス・フィルムズ 配信 配信：セテラ・インターナショナル

Production et coproduction: Jeanne Moreau, Laine Migi, Patrick Pineau - Une Estonienne à Paris - Un film de Sloane Raag - Avec François Beukelaers, Frédéric Epau, Clotilde Taghe, Ita Ezra, Helge Kuningas, Tenu Mihliver, Helene Yannari, Vincent Huel, Raag, Anouk Letour, Luc Masselmont - Image: Laurent Brauer - ABC-Son - Pierre Mercier, Valère Leroy - Emmanuel de Bussien - Décors: Pascal Cottogno - Costumes: Anne Dausford - Montage: Anne-Laure Guéhen - Musique: Det Manu, Carling - Belgique-Moldavie - ARD/A - Les assistants réalisateurs: Jérôme Millard - Scénario: Jonathan Meizand - Régisseur général: Christoph Grandtner - Directeur de production: Angélique Massion - Coproducteurs: Philippe Kaufmann, Adrien Poltowicki et Gilles Wuesthryn - Produit par Milena Pojta et Gilles Sarrasin, Bibus Sildon. Les coproducteurs France-Estonie-Belgique: T3 Productions, Animaparc, La Paris Production, en coproduction avec a3film, en association avec afinordoc, la participation de Canal+, Cine+, du Centre National du Cinéma et de l'Image Audiovisuelle associé avec Palatin, Etoile 9 et Croissant 23 Avec le soutien de Estonia Film Foundation, Estonian Cultural Endowment, Estonian Ministry of Culture, Media Programme of the European Union (Development-121) Avec l'aide du Centre de Cinéma et de l'Audiovisuel de la Fédération Wallonie-Bruxelles et de VOO - Avec le soutien du Tax Shelter du gouvernement fédéral de Belgique et des investisseurs Tax Shelter.

www.cetera.co.jp/croissant



憧れのパリにやって来た家政婦と裕福だが孤独な老婦人。境遇の違う2人が、生きる喜びを見つけるまでの心温まる実話

はじめてパリにやって来た家政婦アンヌと、裕福だが孤独な老婦人フリーダ。
 住む世界の違う2人が出逢い、再び人生が微笑み始める——。
 心の奥に温かな灯をそっと点す感動の実話。

2人の女優の真挚な演技に
 心動かされる

——ル・モンド紙

シンプルで緻密な演出、
 そして神々しいまでのジャンヌ・モロー!

——テレアマ誌



ヨーロッパ各国で熱い注目を集める、エストニアの新鋭イルマル・ラーク監督。ロカルノ国際映画祭でエキュメニカル賞を受賞した本作は、フランスの名立たるマスコミも絶賛。静かな感動の輪が今、海を越えて日本に届く——。エストニアで母を看取ったばかりのアンヌに、パリで家政婦の仕事が舞い込む。心機一転、憧れのパリへ旅立つが、彼女を待ち受けていたのは、高級アパートマンに独りで暮らす、気難しい老婦人フリーダだった。実は雇い主はカフェを経営するステファンで、家政婦など求めていないフリーダは、アンヌを冷たく追い返そうとするが…。大人のおとぎ話のような設定に見えて、リアルな感情に胸を揺さぶられるのは、監督の母の実話を基にした物語だから。人生の転機に、新たな世界へ踏み出す勇気をくれる、優しい力に満ちた感動作が誕生した。

その存在が、その生き方が〈伝説〉——

自由と芸術の国フランスの象徴、ジャンヌ・モロー主演

老婦人フリーダを演じるのは、フランス映画界の至宝ジャンヌ・モロー。ルイ・マル、フランソワ・トリュフォーなど名監督たちの傑作に出演。自由奔放で信念を持った新しい女性像を演じ、時代の寵児となった。85歳で久しぶりの主演となる本作では、自身の生き様を注ぎこんだ圧巻の演技で魅了。一方、家政婦アンヌ役は、エストニアの個性派女優ライネ・マギ。結婚と離婚、子育てと母の看病に追われ、人生も半ばを過ぎて、抜け殻になったアンヌ。そんな彼女が、パリで好奇心に満ちた少女の瞳を取り戻し、もうひとつの人生と出逢うその姿は、今を懸命に生きる私たちの、深い共感を誘う。

エッフェル塔、凱旋門、カフェにクロワッサン、そしてシャネル——
 永遠の憧れの都パリの素顔

本作のもう一人の主人公、それはパリ。夜ごと街を散策するアンヌの目を通して、観光客には決して見せないパリの素顔を覗くことができる。フリーダの、本物のパリジェンヌの暮らしも見どころのひとつ。彼女のシャネルファッションはすべて、ココ・シャネルと親交があったジャンヌ・モローの私物。シャネルの自宅にあったコロマンデル風の屏風や60年代の手縫いのイヴ・サンローランのカーテンなど優雅なインテリアも必見。



クロワッサンで朝食を

2012年ロカルノ国際映画祭 エキュメニカル賞受賞
 セテラ・インターナショナル創立25周年記念作品

監督・脚本：イルマル・ラーク/出演：ジャンヌ・モロー「死別台のエレベーター」、ライネ・マギ、ハトリック・ピノー
 共同脚本：アニエス・フォーヴル、リーズ・マシュブ/撮影：ローラン・ブリュネ/衣裳：アン・ダンスフォード/美術：パスカル・コンジニ
 音楽：Dez Mona、ジョー・ダッサン「メランコリーというのなら」/原題：Une Estonienne à Paris/2012/フランス=エストニア=ベルギー
 フランス語・エストニア語/95分/ヴィスタ/日本語字幕：吉田由紀子/配給・宣伝：セテラ・インターナショナル/協力：ユニフランス・フィルムズ
www.cetera.co.jp/croissant/

島根県民会館名画劇場

7月19日(土)

①14:00～ ②18:30～

開場は30分前・2回上映・95分

島根県民会館中ホール

料金：会員(当日のみ)800円 / 学生(中・高・大・専門 当日のみ)500円

一般(前売)1,000円(当日)1,200円 / 小学生以下無料

※名画劇場随時会員募集中!(継続会員の方は200円、新規会員の方は300円でご入会いただけます。)※無料託児サービス有。7/12までに要申込。

<お問合せ・託児申込> 総合インフォメーション・チケットコーナー TEL (0852) 22-5556

